

2016年3月18日  
株式会社日立製作所

## シンガポールのRO膜システム子会社と水関連設備エンジニアリング子会社を合併 アジア地域や島しょ国での水・環境ソリューション事業を強化

株式会社日立製作所(執行役社長兼 COO:東原 敏昭/以下、日立)は、インフラシステム事業の東南アジア地域統括会社 Hitachi Infrastructure Systems (Asia) Pte. Ltd. (代表取締役社長:大竹 雅明)のシンガポール共和国(以下、シンガポール)における100%子会社で、RO\*膜システムの設計から製造、販売、メンテナンスを手がける Hitachi Aqua-Tech Engineering Pte. Ltd.(代表者:Tang Chay Wee/以下、日立アクアテック社)と商業施設・公共施設および住宅向け水関連設備のエンジニアリングを手がける Aqua Works and Engineering Pte. Ltd.(代表者:Terry Chang/以下、アクアワークス社)を2016年4月1日付で合併することを決定しました。なお、合併後の存続会社は日立アクアテック社となります。

本合併は、アジア地域や島しょ国において、リゾートや商業施設、高層集合住宅向けの水・環境ソリューション事業のさらなる強化を目的として、日立アクアテック社のRO膜システムとアクアワークス社の水を利用した景観設備を組み合わせた総合提案力の強化と、両社の顧客基盤を通じた受注機会の拡大をさらに図るとともに、経営リソースの集約による一層の経営効率向上をめざすものです。合併後の日立アクアテック社では、2018年には、シンガポールやモルディブ共和国などを中心としたアジア地域や島しょ国において、売上高約38,000,000シンガポールドル(約30億円)をめざします。

現在、限られた水資源の有効活用が求められており、RO膜システムは、飲料水の確保のための海水淡水化システムや、生活・産業排水を工業用水などへ再利用可能とする水処理システムの中核製品として活用されています。また、アジア地域の新興国やリゾートでは、RO膜システムとともに、噴水やプールなど水を利用した景観設備の需要拡大も見込まれています。

こうした中、日立グループは、2009年1月にシンガポールやモルディブ共和国などにRO膜システムの豊富な納入実績がある日立アクアテック社を、また、シンガポールを中心に数多くの噴水・プールなど水を利用した景観設備を手掛けているアクアワークス社を2015年1月に子会社化し、製品やリソースを相互活用した一体運営を推進してきました。そしてこのたび、両社の合併を通じて、より一層のシナジー効果を創出し、アジア地域や島しょ国において、リゾートや商業施設、高層集合住宅向けの水・環境ソリューション事業のさらなる強化を実現していきます。

日立グループは、水・環境ソリューション事業を「社会イノベーション事業」の注力分野と位置付けています。今後も、顧客やパートナー企業との連携を強化するとともに、日立グループの総合力を生かして、水・環境ソリューション事業のグローバル展開の強化・拡大を図っていきます。

\* RO: Reverse Osmosis(逆浸透)

■日立アクアテック社の概要(2016年4月1日予定)

|      |   |
|------|---|
| 社名   | Hitachi Aqua-Tech Engineering Pte. Ltd.   |
| 所在地  | シンガポール  |
| 事業概要 | ・RO膜システムの設計、製造、販売、メンテナンス<br>・商業施設・住宅向けの水を利用した景観設備(噴水、プールなど)の設計・エンジニアリング、施工、メンテナンスなど |
| 代表者  | Tang Chay Wee   |
| 設立年  | 1977年   |
| 株主   | Hitachi Infrastructure Systems (Asia) Pte. Ltd.: 100%                               |
| 資本金  | 約 2,000,000S\$  |
| 売上高  | 約 31,000,000S\$(約 25 億円)(2015 年度見通し)  |
| 従業員数 | 約 150 名   |

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---